

小国の分立

※この頃の墓には1 副葬品 (銅鏡・銅剣・勾玉等)を伴うものもある。=身分差の発生

1. 紀元前1世紀頃の日本

=2 『漢書』 地理志 (編者: 班固)にみる日本 [史料1]

- (A) 「分れて百余国を為す」=小国に3 分立 していた。
- (B) 朝鮮半島にある4 楽浪郡 に定期的に使者を送り、貢物を中国に贈っていた。

2. 1~2世紀頃の日本

=5 『後漢書』 東夷伝 (編者: 班固、(司馬彪))にみる日本 [史料2]

☆この史書には日本の使いが2度中国をたずねたことが描かれている。

〈1回目〉
 「建武中元二年 (=西暦6 57 年)、倭の7 奴国、奉貢朝賀す。…光武 賜ふに8 印綬 を以てす。」

〈2回目〉
 「安帝の永初元年 (=西暦9 107 年)、倭の国王帥升等、10 生口 百六十人を献じ、請見を願ふ。桓・靈の間、倭国大いに乱れ、更々相攻伐し、歴年主無し」

Q 1. 1回目の使いのときに中国皇帝から与えられたものとみられる印が、江戸時代の農民によって奇跡的に発見された[図表P. 39[2]]。どこで発見された?その印には何と刻まれていた?正確に記そう。

A 1. (発見地) 福岡県 志賀島 (刻まれた文字) 漢委奴国王

邪馬台国連合 (3世紀の日本)

=11 『魏志』 倭人伝 (編者: 陳寿)にみる日本 ※当時の中国は魏・呉・蜀の三国時代

1. 邪馬台国連合の成立 [史料3]

- (A) 「倭人は12 帯方 の東南大海の中にあり、山島に依りて国邑をなす。…其の南に13 狗奴国 有り、男子を王と為す。…女王に属せず。」

◇ 『漢書』地理志のわずかな記述が、文献に見える日本の最初の姿。ここからは統一政権らしきものがまだ存在していない様子がかがわれます。なお、皆さんは漢字をちゃんと意味を考えて覚えようとするために、「地理志」をつい「地理誌」と書いてしまいそうになりませんか。

歴史書には年代順に記す「編年体」と、テーマ別に記す「紀伝体」の二つの形式がありますが、中国の正史は主に紀伝体、日本の正史は基本は編年体とされます。紀伝体は、支配者に焦点を当てた「本紀」や官僚などの有力者の姿を描いた「列伝」などで構成されますが、その一つに地理や文化、法制度などの社会事象を取り上げたものがあり、これが「志」とよばれるものになります(「書」「典」などという場合もあるようです)。ということで、紀伝体の一部であることを示す「志」の漢字を間違えずに使うようにしてください。

◇ 『後漢書』東夷伝は、三つの内容からなっていることを確信を持って言えるようにしておきましょう。

- I 57年、奴国王が印綬を賜る。
- II 107年、倭国王帥升が生口160人を献上。
- III 2世紀後半(「桓・靈の間」)の倭国大乱

◇ 志賀島の金印は1784年に水田耕作中だった甚兵衛さん(諸説ある)が偶然掘り起こしました。1500年以上前の贈答品(約2cm四方)が発見された奇跡の瞬間でした。金印はただ埋もれていたのではなく、石で囲まれて隠されていたそうです。当時藩医を務めていた儒学者・亀井南冥は、福岡藩に届けられたこの金印を即座に『後漢書』と関連するものと指摘して、報告書を作成したと言われます。江戸時代の学問水準の高さがうかがわれます。

卑弥呼が賜った「親魏倭王」の金印も今もどこかに埋もれているはずですが。静かに発掘の時を待っているのでしょうか、道路やビルの下でしょうか、それとも土砂と一緒に運搬されてどこかに放置されているのでしょうか…

◇ 『漢書』地理志には「楽浪郡」とあります。場所を図表P. 39[3]の地図で確認しておきましょう。これはこの地を征服した漢が紀元前108年に設置した地方行政区画です。弥生時代の終わり頃まで存続しました。一方、帯方郡は後漢の終わり近くに、楽浪郡南部を分割して設置した地方行政区画です。これも弥生時代の終わりに高句麗に制圧されます。設置時期からいって、帯方郡は『魏志』にしか登場しません。